

みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	一般社団法人 ReRoots	
代表者名	(二木 ヒロユキ) 二木 洸行	
連絡先	TEL : 022-762-8211 FAX : 022-762-8211	E-mail : reroots311@yahoo.co.jp

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	仙台市若林区東六郷地域における高齢者の生きがいきづくりおよび福祉世論の形成事業
事業の目的	仙台市若林区の東六郷地域は、江戸時代から続く農村地帯であるが、東日本大震災による甚大な被害を受けた。2つの小学校が閉校してしまい、若者世代が流出したことで高齢化率は42.3%(2021年1月時点)まで高まり、深刻な高齢化が進んでいる。地域内には高齢者の独居や高齢者夫婦のみの世帯も少なくとも20世帯はあり、生活上の困りごとや将来への不安は大きい。特に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって地域内のコミュニティの希薄化に拍車がかかり、農村ならではの助け合いも希薄化してしまった。 よって地域福祉やコミュニティの再生は急務であり、これらを実現していく以下の政策を立案した。 ①映画上映会 映画上映会の開催を通して、住民同士の交流の場を作るとともに、娯楽を通して高齢者の生きがいきづくりを行う。映画上映後は高齢者でも気軽にできる体操を行ったり、スポーツを行うなどして、身体を動かす喜びを生み出しながら、介護予防にも繋げる。 ②福祉ワークショップ 地域住民を招いて地域の現状や、今後についての実態の把握・共有や、将来の地域課題について、他地域の先行事例や行政政策なども交えながら住民の議論の場をつくる。ここで、地域福祉の世論形成につなげ、住民自身の

	立ち上がりを促すきっかけづくりとする。 ③福祉調査 ご家庭に訪問して高齢者の日常の困りごとや、将来の不安をアンケート調査をすることで地域の現状がどのようになっているのかという状況を調査する。また、若者が訪れること自体が高齢者の愉しみであり、見守りにも繋げる。
事業の具体的内容	①映画上映会 仙台市東六郷コミュニティ・センターで12月5日に実施した。令和3年度7月、11月、令和4年度3月の計3回実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、12月5日のみの実施となった。 映画は参加者が昔を懐かしむ娯楽となるものを選び、「いつでも夢を」(1963年)を上映した。若林区内の特別養護老人ホーム「萩の風」へ伺い、高齢者の介護予防に有効な健康体操を教えていただき、上映後には参加者と一緒に健康体操を行い、地域で伝統的に夏祭りなどで踊られてきた六郷ふるさと音頭を一緒に踊った。スポーツは年齢や健康状態に関わらず実施しやすい「モルック」をチーム対抗形式で実施した。 なお、会場内装飾は手芸の得意な地域住民に教えていただいた手芸品を作成し、装飾として使用した。 ②福祉ワークショップ 福祉ワークショップは今後バス路線の縮小や新たな形式への転換が予想される「地域交通」と、活動に対して少額の報酬が払われるボランティア形態である「有償ボランティア」をテーマに、住民に対する福祉のシステム作りの意見交換を行う企画である。本企画の参加者は町内会長や地域の現状を認識し、何とかしようとしている積極的な地域住民が中心であると考えられ、これらの地域住民に対する世論づくりが中心となる。また、福祉ワークショップだけでなく、介護予防を行う意識をもってもらうために体操や運動を行い、スポーツ交流会を兼ねたものとした。令和3年度9月12日、令和4年度2月に開催予定であったが、令和3年度7月、11月に実施予定であった映画上映会と同様の理由により、いずれも実施中止となった。 ③福祉調査 令和4年度4月から5月末にかけて実施し、六郷東部地区の三本塚、二木、種次の3地区の住居を一軒ずつ訪問し、聞き取り形式のアンケート調査を行い、コロナ禍を経た地域の現状や住民たちの様子などについて調査を行

	った。調査対象とした家の軒数は 182 軒でこれらの家に一軒ずつメンバーが伺った。
活動の開始から完了までの流れ	①映画上映会 令和 3 年度 10 月上旬 企画内容検討開始 10 月下旬 チラシのポスティング 11 月第 2 週 ・各地区の町内会長宅、協力してくださる地域住民宅の訪問 ・会場内装飾の検討開始 11 月第 3 週 ・健康体操の検討開始 ・しおりの作成開始 11 月 21 日 ・映画上映会当日を想定した予行練習の実施 ・企画内容の再検討 12 月 5 日 企画当日 令和 4 年度 1 月 協力してくださった地域住民に企画の報告書等配布 ②福祉ワークショップ 令和 3 年度 9 月 12 日、2 月 23 日に実施予定で会場を予約したが、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みて中止 ③福祉調査 令和 4 年度 3 月上旬 アンケート内容の検討 4 月 アンケート配布開始 配付期間 4 月上旬～5 月下旬 4 月中旬 結果集計開始 5 月下旬 結果集計完了
活動の成果と教訓	①映画上映会 新型コロナウイルス感染症や過疎化・高齢化の影響で地域の集まりが縮小しているなかで、11 人の地域住民に来て頂けたことで、参加者からは「青春時代を思い出して懐かしかった」などの声が挙がり、昔を懐かしみながら住民が交流する場とすることができた。また、体操や地域で伝統的に夏祭りなどで踊られてきた六郷ふるさと音頭を踊る中で、「体を動かしてすっきりした」という声があり、モルックに対しても「楽しかった」「またやりた

	い」と、次の機会を楽しみにしている。 また、交流を通して、体調を崩されている住民がいること、家庭内介護で忙しい参加者がいるなど、地域住民の現在おかれている状況や、地域での集まりがどうなっているのかも把握でき、町内会などとの関係性がより強固なものになってきている。 一方で、映画上映会の性質上、屋内での開催になるのでコロナ禍の影響は大きく、企画の中止や参加者数が目標人数に届かなかった。次年度以降は、シニアスポーツを中心として企画を立案して、コロナ禍の影響を最小限に抑えるように工夫していく。 ②福祉ワークショップ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により企画自体は中止となり、掲げた目標は達成できなかった。ただし、準備段階における事例調査の内容を見れば、どの成功も住民自身の立ち上がりがあることが共通しており、町内会との話し合いや、福祉調査活動の話題となった。 企画自体の開催はコロナ禍の影響が大きいものの、振り返れば地域課題や事例をパンフレット化していけば、町内会長などのリーダー層や福祉調査の中で活用できたことが想定され、蓄積した内容が見える化しておく。 ③福祉調査 調査対象の 182 軒のうちほぼ半数にあたる 77 軒から回答を頂くことができた。これは、コロナ禍の影響で前回から約 3 年ぶりに住民の生活の困り事や不安を体系的に掴め、重要な情報となっている。新型コロナウイルス感染症を経て、地域の現状がどのように変化したのかも把握することができた。また、コロナ禍の影響で、つながりの希薄化や行事の再開を望む声も多く、住民のお宅に大学生が訪れ、地域住民の話し相手としての役割も果たすことができ、「県外に住んでいる娘や孫もこのコロナ禍でなかなか帰ってこれなくて、こうやって話に来てもらえるのはありがたいね」や「また来てね。今度はいつ頃くるの?」といった反応も多く挙がっている。 そして、高齢で独居の方など、今後も重点的に訪問すべき世帯が発掘され、実際にごみ出しが自力では出来ないといったニーズも掴んでおり、町内会や行政、福祉施設と連携しながら生活をどのように支えるのか、議論を進めることが出来る。
今後の展望など	地域福祉の取り組みづくりの基盤は整いつつある。特に、住民のニーズを体系的に掴めたこと、企画の準備や実行を通して、町内会や老人会などと意見を交換するこ

	とができた。次年度、シニアスポーツを行うが老人会などと協力して行う可能性も生まれ、地域に根づいた活動に変化させていく。 そして、地域福祉の世論を本格的に作っていく段階に入ってきたといえる。特に、行政による地域交通の導入提案は地域にとっては大きな反響があり、地域課題を認識せざるを得ない状態にあるので、福祉ワークショップ等を通して、世論形成を進め、2026年ごろを目途に福祉事業者や地域福祉についての住民グループなどと連携して、地域福祉のシステムを具体的に実行していく。
--	--

2、助成金使途報告書

■ 収入の部

確保した資金内容	金額（円）	備考
福祉活動助成金	404,000 円	
自己資金	1,209 円	
合計	405,209 円	

■ 支出の部

費目	内容	予算額（円）	実支出額
旅費交通費	・メンバー交通費 地下鉄東西線仙台駅～荒井駅間往復	49,000 円	54,360 円

印刷製本費	・映画上映会および福祉ワークショップ広報用チラシ、福祉調査アンケート用紙、映画上映会および福祉ワークショップ当日しおり印刷用トナー代 ・映画上映会および福祉ワークショップ広報用チラシ、福祉調査アンケート用紙、映画上映会および福祉ワークショップ当日しおり印刷代 ・映画上映会および福祉ワークショップ広報用チラシ、福祉調査アンケート用紙、映画上映会および福祉ワークショップ当日しおり印刷用紙代	110,000 円	110,349 円
備品費	・モルック(高齢者スポーツ) ・福祉調査結果保存媒体(USB、SSD ハードディスク)	143,000 円	131,070 円
消耗品費	・映画上映会消耗品費(会場装飾品、感染症防止のための消耗品) ・福祉ワークショップ消耗品費(会場装飾品)	13,000 円	13,279 円
借用料	・映画レンタル代 40,000 円×1 回 ・映画上映会および福祉ワークショップ会場(東六郷コミュニティセンター)借用料 ・映画上映会および福祉ワークショップに向けた検討会議を行う会議室代	89,000 円	96,151 円

合計		404,000 円	405,209 円
----	--	-----------	-----------

*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

3、送付必要書類

① 福祉活動助成金 助成活動報告書

プリントアウトしたものを1部郵送、データもメールでお送りください。

② 領収書のコピー（郵送）

③ 成果物（活動の様子がわかる写真、または事業で作成したものを郵送）

*写真は郵送とメールで送ってください。

第12回

映画上映会 & スポーツ交流会

上映作品 ▶ 『いつでも夢を』

スポーツ ▶ モルック

日時 ▶ 12月5日(日) 13時～16時(12時半開場)

会場 ▶ 東六郷コミュニティ・センター (東六郷コミュニティ広場向かい)

参加費 ▶ 無料

【主催】
一般社団法人 ReRoots
TEL ▶ 022-762-8211
E-Mail ▶ reroots311@yahoo.co.jp
(ReRoots若林ボランティアハウス)

映画と運動で心も身体もリフレッシュさせませんか？
住民さん同士の交流の機会になれば幸いです！
申し込みは不要ですので、お気軽にお越しください！

※寒さ対策をお願いいたします。

※新型コロナウイルスの感染予防のため、アルコール消毒、マスクの着用、換気、適度な距離の確保を徹底して行っております。状況によって中止になる場合がございます。会場でお名前と電話番号をお聞きますが、感染者の発生時にのみ使用いたします。

本企画は、みやぎ生協福祉活動によって助成されています。

映画上映会 ▶▶『いつでも夢を』

(13時～@多目的室)

(1963年公開)

～あらすじ～

東京下町の工場地帯を舞台とした、高度成長下の若者たちの青春群像劇。看護婦のひかる（吉永小百合）と、彼女に想いを寄せる工員の勝利（浜田光夫）は、共に働きながら夜間高校で学んでいる。そこへ新入りのトラック運転手の竜次（橋幸夫）が現れ、勝利と竜次は恋のライバルとなるが…。



出典: 日活ホームページ
(<https://www.nikkatsu.com>)

スポーツ交流会 ▶▶ モルック

(15時～) ※スポーツ交流会のみの参加も可能です！

～モルックとは～

「モルック」と言われる木の棒を投げ、地面に立てた複数の木のピンを倒して獲得した点数を競います！
楽しいだけでなく程よい運動にもなり、計算による脳トレの要素もあるスポーツです！！



スポーツ交流会 福祉ワークショップ

開催日

2021年9月3日(金)

参加
無料

スポーツ交流会

ところ

東六郷
コミュニティ広場
(旧 東六郷小学校跡地)

福祉ワークショップ

東六郷
コミュニティ・センター
(東六郷コミュニティ広場向かい)

とき

13:00~

14:00~16:40

※ 猛暑・雨天の場合、スポーツ交流会は中止とし、
福祉ワークショップを1時間前倒して行います。

新型コロナウイルスの感染防止のため、アルコール消毒、換気、マスクの着用、適切な距離の確保等を徹底します。
また受付時にお名前をお伺いしますが、感染者発生時の対策にのみ利用いたします。なお状況によって中止になる場合があります。

本企画は、
「公益財団法人 太陽生命厚生財団」、
「みやぎ生協福祉活動助成金」に
よって助成されています。

【主催】

一般社団法人ReRoots（リルーツ）
(お問い合わせ) 022-762-8211

スポーツ交流会

モルックとは？

フィンランド発祥のスポーツです。

「モルック」と言われる木の棒を投げ、
地面に立てた複数の木のピンを倒して
獲得した点数を競います。

楽しいだけでなく程よい運動や計算による
脳トレの要素ありのスポーツです。



福祉ワークショップ

るこ



これからの六郷東部地域で地域福祉を
どう作っていくかを、ボランティアの
大学生とともに考えていきます。

地域のことを意見交換をしたい方は
もちろん、住民さん同士で気軽に
おしゃべりしたい方も大歓迎です！

和気あいあいとした雰囲気の中で、
一緒にお話ししませんか？



目次

六郷東部地区 地域福祉計画策定のためのアンケート調査 調査結果報告書

要約の調査結果	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の実施	2
3. 調査結果	3
4. 調査結果	4
5. 調査結果	5
6. アンケートの質問項目	6

結果の調査結果	1
1. 日常生活の困りごとについて	1
2. 10年間の困りごとの変化について	2
3. 地域交通について	3
4. 六郷東部地区の現状について	4
5. 地域や一般社団法人ReRootsへの要望について	5

令和4年5月
一般社団法人ReRoots

目次

①調査の概要

1. 調査の目的
2. 実施期間
3. 調査方法
4. 調査対象
5. 調査件数
6. アンケートの質問項目

②調査結果

1. 日常での困りごとについて
2. 10年後の困りごとについて
3. 地域交通について
4. 東六郷地域の今後について
5. 地域や一般社団法人ReRootsへの要望について

1 調査の概要

1. 調査の目的

六郷東部地区は高齢化率42.3%(2021年1月時点)であり、超々々々高齢化社会となっている。東日本大震災の津波の影響により、東六郷小学校が閉校し、若者世代が流出した東六郷地域では、過疎化・高齢化が急激に進行している。さらに仙台市都市化計画では都市中心部に都市機能を集約させ、若林区沿岸部は「食と農のフロンティアゾーン推進特区」として定められ、六郷東部地域に対するコミュニティや福祉の行政政策はほとんど行われていない状態である。ReRootsが2018年に行った調査では現在には大きな問題はなくても、10年後には「移動」や「買い物」、「日常の困りごと」などが大きく問題化することが明らかとなった。若林区の地域おこしにおいて地域住民自身が生き生きと暮らせる農村は重要であるが、昨年から新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により町内会活動や地域の集まりが激減し、困りごとなども増えていると予測される。このことから、今後バス路線の縮小や新たな形式への転換が予想される地域交通や、日常の困りごとといった地域福祉に関するアンケート調査を実際に地域住民の自宅を訪問し実施することによって、前回の福祉調査活動から3年ほどたち、新型コロナウイルス感染症を経て、地域の現状がどのようなになっているかという状況、近況を把握することで、今後行っていく地域福祉の仕組みづくりに役立てる。

2. 実施期間

2022年4月9日～2022年5月29日

3. 調査方法

一般社団ReRootsの学生ボランティアが地域住民の家を1軒1軒訪問し、アンケート調査、聞き取り調査を行った。アンケートは一般社団法人ReRootsの学生ボランティアが作成した福祉調査アンケートを使用した。

4. 調査対象

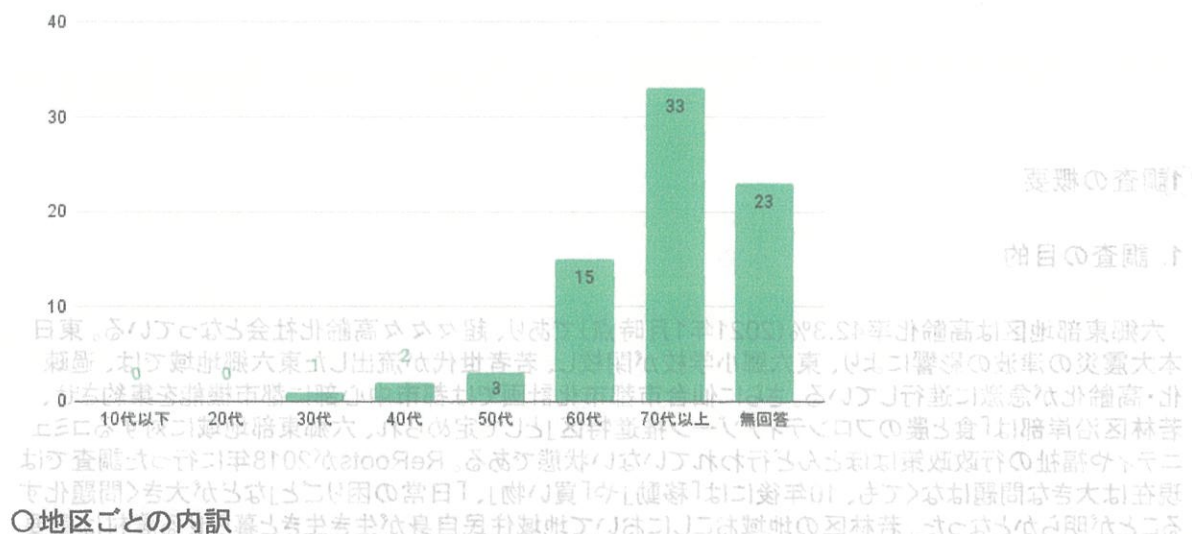
六郷東部住宅地図上の182軒

5. 調査件数

182軒中不在、空き家、受け取り拒否の家を除き、77件を訪問

○回答者の年齢構成について

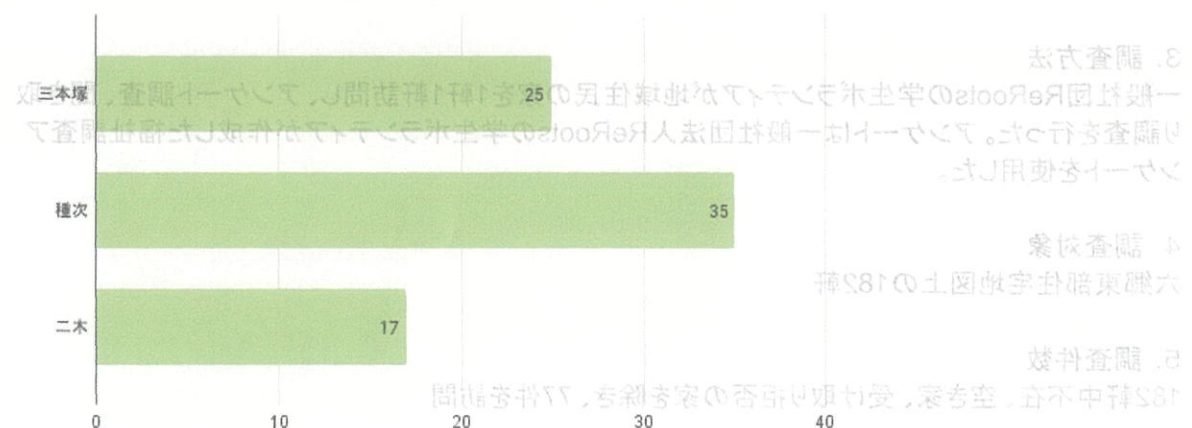
回答者の年齢構成



○地区ごとの内訳

	地図上の件数	調査件数
三本塚	74軒	25軒
種次	70軒	37軒
二木	38軒	17軒

地区別回答者数



6. アンケートの質問項目

- ・日常での困りごととは何か
- ・10年後に困りごとになっていそうなことは何か
- ・バス路線の縮小や新たな地域交通への形式への転換が予想されるがそれについてどのように考えているか
- ・東六郷地域の今後について考えていること
- ・地域や一般社団法人ReRootsへの要望はあるか

②調査結果

1. 日常での困りごとについて

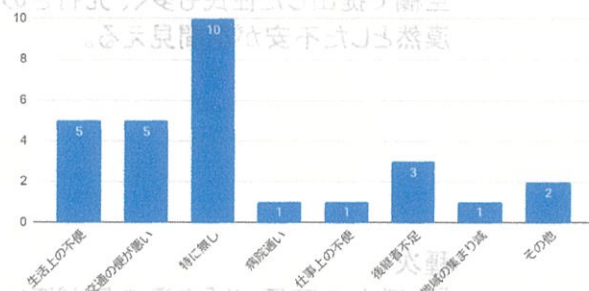
質問内容→日常での困りごとはありませんか

この質問項目では現在抱えている困りごとについて調査した。回答は自由記述を用いり、集計の際には回答内容から「生活上の不便」、「交通の便が悪い」、「仕事上の不便」、「後継者不足」、「地域の集まり減」、「地域の活気減」、「その他」、「特に無し」という項目に分けてカウントを行った。

三本塚

困りごとがあると回答した住民のうち、「生活上の不便」や「交通の便が悪い」と回答した方が多かった。「病院に通いづらい」と具体的に回答した人もいた（便宜上、「生活上の不便」としてカウントした）。

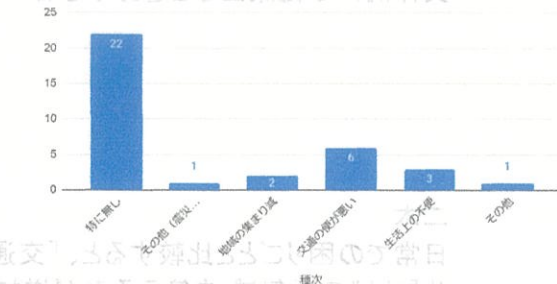
日常での困りごとはありませんか



種次

困りごとがあると答えた者（10人）のうち、「交通の便が悪い」と答えたのは過半数以上の6人を占めた。この結果には地域事情も反映されていると考えられる。種次ではバス停から離れた家も多く、もともとのバスの利便性以外にも「バス停が遠くて、歩いて行けない」という声も多かった。

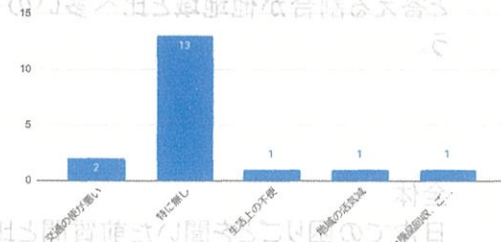
日常での困りごとはありませんか



二木

現時点で困りごとを上げた住民は少ないが、他地域と同様に「交通の便の悪さ」や「生活上の不便」を上げる者がいた。

日常での困りごとはありませんか



全体

回答結果は分散しているが、どの地域でも「交通の便が悪い」や「生活上の不便」を困りごととしてあげるものが多かった。「生活上の不便」で病院通いや買い物の不便さを具体的に示す者も多く、問題が複雑化しているということがわかった。

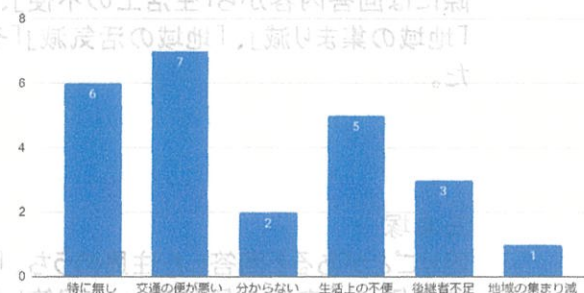
3. 10年後の困りごとについて

質問内容→10年後の困りごとになっていそうなことはありますか？

この質問項目では10年後困りそうに考えられることについて調査を行った。日常での困りごとについて聞いた項目と同様の集計方法を行ったが、「わからない」という共通した回答も目立ったためその項目も追加した。

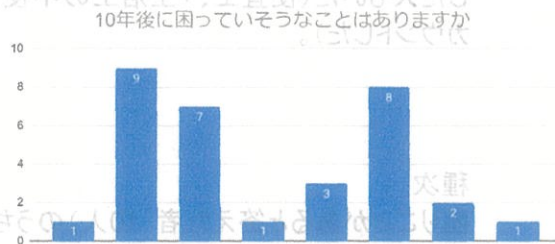
三本塚

日常での困りごとと同様に「交通の便が悪い」や「生活上の不便」を上げる住民が多く、その数は増加している。一方で「わからない」と答える者や空欄で提出した住民も多く、先行きの見えなさや漠然とした不安が垣間見える。



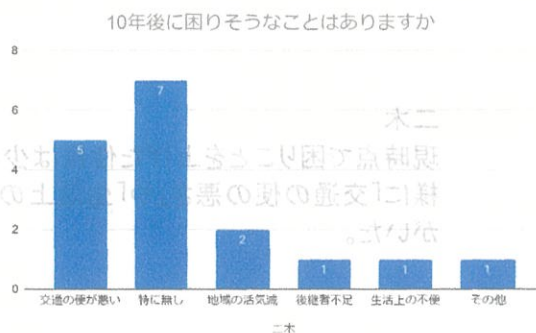
種次

「生活上の不便」や「交通の便が悪い」を上げる住民の数が大きく増加している。特に「生活上の不便」を指摘する住民の数は倍以上に増えており、具体的には健康面などをあげる者が多かった。



二木

日常での困りごとと比較すると、「交通の便が悪い」や「地域の活気減」を答える者が増加し不安な気持ちが具現化していると考えられる。二木では「特に無し」と答える割合が他地域と比べ多いのも特筆すべきだろう。



全体

日常での困りごとを聞いた前質問と比較すると、全体的に困りごととは増えそうだと不安視している住民が多い。自身の高齢化に伴う問題(例えば免許返納後の移動や生活上での問題など)を上げる者が多いが、それらを補填する具体的に支援の形が現時点で確立していないことが分かった。

3. 地域交通について

質問内容→「昨年度策定された「仙台市地域公共交通計画」により、六郷東部地域では現行のバスが見直されることになりました。今後バス路線の縮小や新たな地域交通の形式への転換が予想されますがどのようにお考えでしょうか？」

この質問は地域内の移動手段として唯一の公共交通機関である路線バスの本数が縮小される方針にあることを受けての質問である。

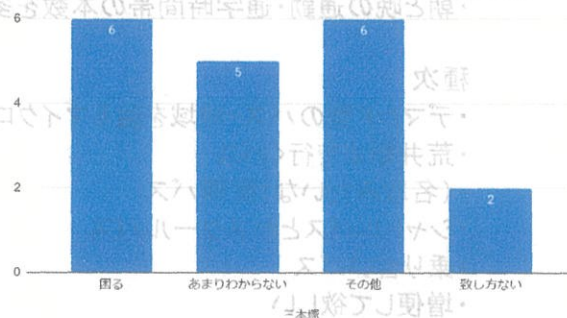
バスの本数削減に対する住民自身の率直な思いに加えて、どのような形の移動を求めているのかといったことの調査を意図している。

地域ごとの回答結果としては下のようになった。

三本塚

有効回答19名のうち、30%以上である6名が「困る」と回答している。三本塚地域は六郷東部地区では比較的高齢化が緩やかな地域でもあり、免許を持っている住民も多く現時点で移動に困っているという話は少ない。しかし、免許を返納したら、より年老いたら、バスがなくなってしまうたら困るという意見が多かった。また三本塚地域ではメインのバス停が南北に2つ（「三本塚」と「長屋敷」）があり、「その他」の多くの意見がいたという内容であった。

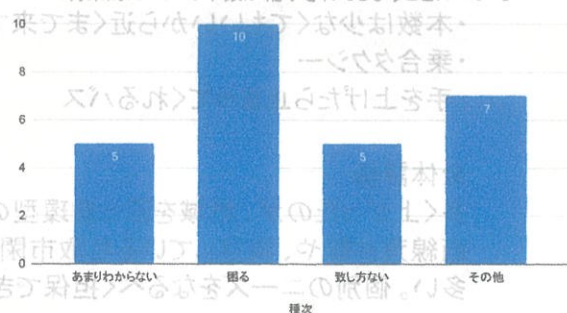
将来的にバスの本数が縮小されてしまうことについて



種次

種次地区では有効回答が27と、この質問に関する回答も比較的多く、交通やバスの問題に関心を寄せている住民が多いことがわかる。それほどバスという交通機関が、当該地域において必須の移動手段であるということだろう。やはり「困る」と答える住民が多い一方、「致し方ない」と諦めの気持ちを表明する住民も相対的に増えている。この背景には、市バスの赤字経営や地域そのものについて高齢化するだけといった諦観する姿勢があるように考えられる。

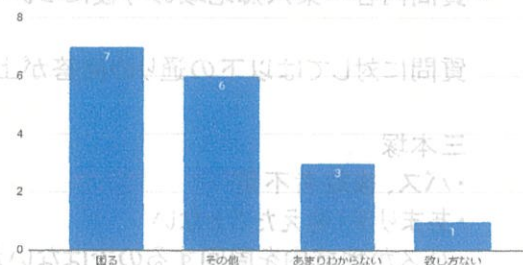
将来的にバスの本数が縮小されてしまうことについて



二木

二木地区では有効回答が17つ得られた。その中でもやはり「困る」という回答が目立つ。その他としては親族など「送迎者がいるから困らない」という回答が多かった。二木でも、現時点では移動に困っていないと答える人が多いが、将来運転が困難になったら困りそうだと認識している人が多い。

将来的にバスの本数が縮小されてしまうことについて



全体

全体的に「困る」や現時点では困っていないが自身が運転できなくなったら困るだろうといった、回答が多く、バスの縮小に対して漠然と不安を抱いている住民が多いことが分かった。バスの

ルートやバス停の位置関係など地域によって、住民が問題意識を感じている程度に差が少し垣間見えることも分かった。

どのような形の移動を求めるか

将来的な移動の形として、住民に挙げてもらったものを上げる

三本塚

- ・長屋敷のあたりでバスが繋がればもう少し良くなるんじゃないか
- ・バスが仙台駅に行かないのはなぜなのか。市営バスではない形で、地域を回るバスがあればいいな。
- ・バス路線はダメなんだ。関西の方は小さいバスで仙台は大きいバス。こんなんじゃ赤字になるのは当然かな。
- ・生活時間に合った時間での運行
- ・朝と晩の通勤・通学時間帯の本数を多く

種次

- ・デマンド型のバス・地域を回るマイクロバス
- ・荒井駅まで行くバス
- ・(名取みたいなの)循環バス
- ・シャトルバスとかスクールバス
- ・乗り合いバス
- ・増便して欲しい

二本

- ・(閑上と接続した)地域を回るマイクロバス
- ・荒井駅行のバス
- ・本数は少なくともいいから近くまで来てほしい
- ・乗合タクシー
- ・手を上げたら止まってくれるバス

全体評価

多く上がったのが、地域を回る循環型のバスやデマンド型のバスである。また仙台市地下鉄東西線荒井駅や、隣接している名取市閑上地域などと具体的な地域が施設との接続を求める声が多い。個別のニーズをなるべく担保できるような、移動の形態が求められているようである。

4. 東六郷地域の今後について

質問内容→東六郷地域の今後について考えていることがあればお聞かせください。

質問に対しては以下の通りの回答が上がった

三本塚

- ・バス、後継者不足
- ・あまり深く考えたことない
- ・バスが地域内を周回するのではない
- ・もっと家が増えたらいい
- ・移動販売
- ・区画整理されたけど、どこまで行っても農家しかない
- ・賑わいを取り戻すためにどうするのか

- ・地域の人に政策の意図を説明して、地域に密着してやってくれる人がいない
- ・高齢化
- ・町内会の担い手不足
- ・農家が安定して続けられるようになればいい
- ・若い人がいないから見通しは暗い
- ・若い専業農家は広い土地をやれるので農業はしやすくなった
- ・若者が少ない
- ・長屋敷のあたりで農家が居なくなって土地を売って資材置き場になっているのが
- ・時間の問題
- ・田舎は田舎のよさ
- ・農地以外の住宅地ができるように考えてほしい
- ・流れに従っていくのみ

種次

- ・5, 60代に任せる
- ・アクセス状態の改善
- ・あまり変わってほしくない
- ・コロナだから地域の集まりもなかなか
- ・スクールバスとかあれば
- ・だんだん過疎化進んでから町内のほうで何かするんじゃないか
- ・まとまりのあるイベント、学校関係とか
- ・何か大きなものがあれば人は寄ってくる
- ・何もない、人が来ない
- ・限界集落
- ・住んで不便
- ・人が増えないことにはわからない
- ・農業ばかりでわからない
- ・農村地帯だから新しいものがないと

二木

- ・イベントがコロナ禍でなくなって付き合いがなくなった
- ・お店や病院が一つでもあれば
- ・何も考えられない
- ・過疎地、若者が欲しい
- ・後継者居るのか
- ・高齢だから特にない
- ・高齢化が進む
- ・学校ないから若い人が来ない
- ・人口増加してほしいけど厳しい
- ・農家が多く、賑わいがあっても農家は忙しいため参加できない

全体として、過疎化高齢化に関する懸念が目立った。若い人に来てほしいという願望がある一方で、東六郷小学校の閉校により現状厳しいという意見が上がった。人が来ない、若い人がいないと地域の担い手がいないためどうしようもないというあきらめの意見が多く上がった。地域に人を呼び込む何かがないと何もないから来ないという意見もあった。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて地域行事や集まりの減少を心配する意見も上がった。また、農家の回答者からは農家の視点から後継者がいないといった意見が目立った。最後に、自身が高齢であること

から地域の今後について考えられないという意見が多くあり、地域の今後について積極的に考えるよりかは、現状に身を任せるといった考えの住民が多いように思われる。

5. 地域や一般社団法人ReRootsへの要望について

質問内容→地域や当団体へのご要望はありますか。

質問に対しては以下のような回答があがった。

三本塚

- ・今後も交流の場づくりを行い、住民同士の仲立ちしてもらえると助かる
- ・意見の取りまとめをしてくれるのはありがたい
- ・災害の時などの地域での声掛けのシステムを作してほしい
- ・高齢者向けの人が集まる企画、農家中心のコミュニティを作してほしい
- ・活動を持続して欲しい、卒業したらメンバーもこの地区に住んでみてほしい
- ・いろんな企画をこれからもやって欲しい

種次

- ・最近のこいろいろ(社会とか世の中とか)教えて欲しい→ポケ防止
- ・地域の草取りをして欲しい
- ・人口が増えてくんだったらいろいろできるけど見通しが無い。各家庭で見通しをもって生活にできるようになること
- ・ReRootsの映画上映会とか盛り上がった
- ・復興支援やってくれてありがたい、これからもして欲しい
- ・年数回、運動会をしたい
- ・ReRootsにはお世話になった、空地にお花とか植えて欲しい
- ・見守っていてほしい

二本

- ・農家さんとかは手伝いが必要
- ・息子に協力してくれてありがたい
- ・地域の集まりがあればどんな形でも参加したい
- ・協力しないといけない行事は参加するが、ReRの企画は参加したことないし、参加する気はない
- ・東六郷コミュニティセンターの広場を使った企画をしてほしい、行政や他団体との連携をしてほしい
- ・古くから地域に住んでいる人との交流が欲しい